生野高校
77期 2年

学年通信 悉しつう有

第48号（2024年2月8日）

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂１－552
072-332-0531(学校代表)
072-332-**0712**(学年直通)

【学年通信は保護者の方にも見せてください】

◆“自分”が投影された学びの発表

2/1(木)のSSH・探究Ⅱ成果発表会では、切り口も工夫も表現も同じものがどれ一つとしてなく、百花繚乱の様相でした。４月の導入ワークやテーマ決めを含め約 11 ヶ月にわたって取り組んできた活動の総まとめということもあって、発表者はみな力が入っていたように思います。生野の生徒だけでなく、各会場で本物の研究者も聞いている中、自分たちが組み立てた活動内容を発表するというのは、決してどの高校生にでも出来ることではありません。「『私たちはこう考えて取り組んだ』ということを、実に堂々と発表していた」と、その後の会議で大学の先生がコメントされていました。

世界の姿について、自分がどの切り口によって捉えようとしているのか。その解釈の新しさと妥当性を示すことに重点が置かれるのが文系型であるように思います。世界に数多ある事象について、自分がどのアプローチで論証しようとしているのか。その計測と一般化の道筋を示すことに重点が置かれるのが理系型であるように思います。さらにこれからは、各分野の“棲み分け”から相互に乗り超えて横断的にアプローチしていく“学際性”が求められるようになります。

そうしたなかで、自分の探究活動（その延長上に大学での研究活動を置くとして）の軸となって支え、推進力となるのが“自分の投影”だと私は考えています。「この部分が自分にとってはひっかかるなぁ（だから取り組んでみよう）」、「これについて、自分の力で・自分の言葉で説明できるようにしたい」――どの探究活動にも、必ず取り組んでいる人の“自分”が投影されています。それは探究スタンダードだけでなく、探究ゼミのレポート発表や作品発表においても同様です。

日本の教育の場では、こうした“学びへの自分の投影”が存分に発揮される場面はそれほど多くはないのが現状です。学びの過程においては自分を投影する場面があるのですが（そして私の授業ではほとんどその場面を設定出来ていないことに申し訳なく思っているのですが）、こと評価においては“学びへの自分の投影”が点数として加味される部分は極めて小さいと言わざるを得ません。学校の成績算出においては主体性の観点（学びに向かう力）に含まれるとは言え、例えば定期考査において自分がこの教科・この単元にどういった関心があり、学んだことを活かしてどういった視座を持てるようになりたいのか、どういったことを明らかに出来るようになりたいのか――それらについて述べることが答案の一角を成し、かつ、評価の対象となることはまずありません。大学入試においても、そうしたことが点数化され、合否に結び付く試験問題が出題されることは極めて稀なケースです。

一方で「探究」は、“学びへの自分の投影”が成否を左右し、しっかりと投影されているものほど説得性を高め、評価へとつながる授業です。何とか時間を捻出して探究に取り組むことに、しんどさを感じることもあるでしょう。しかし、“これで、こう言えるんじゃないだろうか”と見通しが立ったとき、説明の枠組みが組み上がっていくとき、すなわち自分が気付き、立てた問い・仮説に対して、自分が答えを創り出していくとき、高揚感を覚えたのではないでしょうか。説明に必要なピースを探り当てたとき、面白さを覚えたのではないでしょうか。基礎学力の高さや専門性を鍛えることは、探究ー研究を進めていく上で必要なことです。しかし、探究ー研究はそれだけでは続きません。取り組もうと思うだけの、何とか一定の答えを創り上げようと思うだけの“自分の投影”と、それを支える知力・専門性が両輪として機能してはじめて、求める水準にまで到達することが出来るように

なります。国公立大学のいわゆる推薦入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）は、まさにこうした“学びへの自分の投影”を評価に加えようとしたものと言えます。充分な基礎学力を備えていることを前提としつつも、学力一辺倒ではなく、５教科まんべんなく水準を満たしていることよりも、多少の不得意があったとしても学問分野へ“投影する自分”をどれだけ備えているか――高校生活で具体的にどのように投影してきたのか、そして入学後にどんな分野において“自分の投影”を志しているのか、それらが志望する大学・学部の強みや特色に合致しているのか――を選抜基準の一つに設定し、一定の定員を割り当てています。志望理由書や実績報告書などは、高校段階における“学びへの自分の投影”の記録と大学段階における計画書としての性格を帯びています。「この部分が自分にとってはひっかかるなぁ（だから取り組んでみよう）」、「これについて、自分の力で・自分の言葉で説明できるようにしたい」――を持つ人は、こうした特色入試において“投影する自分”の評価を問うてみるのもいいでしょう。

◆３年初め（０学期）の知力祭

昨年 12/14 の学年集会から約２ヶ月が経過し、この「学年通信 悉有」第 48 号発行日（2/8）は、「2025 年共通テストまで、あと 345 日」です。400 日前と言っていた日から数えて、約 15%が経過しました。この期間、コツコツと進めてこられましたか？「３年からで大丈夫」は、高校受験の話。「高校受験での成功体験は一度全て忘れること。大学受験とは全く別物」と、１年次の学年集会で説明しました。焦らなくていい。慌てなくていい。不安にならなくていい。しかし、コツコツと着実に向き合い続けてほしい。既に「３年０学期モード」に切り替わっていなければならない時期ですが、切り替わりが遅い人でも、耐寒登山で下山しながら切り替わっていった生野生をたくさん見てきました。後期期末考査対策を弾みにして、まずは春休みまでの基礎完成期間を走り切りましょう。

教室開放スケジュール
→「77 期 学年」の classroom で配信

＜後期期末考査 時間割＞

日時		文系	理系
2/21（水）	1	数Ⅱb (60 分)	数Ⅱb (60 分)
	2	英R (80 分)	英R (80 分)
	3	地理 (40 分)	地理 (40 分)
2/22（木）	1	現文 (60 分)	現文 (60 分)
	2	家庭 (40 分)	家庭 (40 分)
	3	公共 (40 分)	公共 (40 分)
2/26（月）	1	数Ⅱa(80 分)	数Ⅱa(80 分)
	2	化学 (40 分)	化学 (60 分)
	3	日／世(40 分)	
2/27（火）	1	古典 (60 分)	古典 (60 分)
	2	保健 (40 分)	保健 (40 分)
2/28（水）	1	英W (60 分)	英W (60 分)
	2	生物 (40 分)	物／生(60 分)

◆当面の予定

2/ 9(金) 耐寒登山　8：20 バス内集合
10(土) GLHS 合同発表会
14(水)放課後　国公立推薦入試説明会
後期期末考査１週間前突入
放課後教室開放（～2/27 火）
21(水)～28(水) 後期期末考査①～⑤
27(火)卒業式の体育館設営
3/ 5(火)登校日（答案返却）
8(金)新年度 教材購入日
21(木)後期終業式